



にかさい

江戸川区立第二葛西小学校

令和7年10月31日発行



心の通い合う 第1回「音覧会」に



副校長 森 賢一郎

学校では、今月12日（保護者鑑賞は13日）から始まる「音覧会」に向けた準備が本格化しています。

今年度から、学年を割り振り、展覧会（1，3，5年生、おおぞら）と音楽会（2，4，6年生）の同時開催という、第二葛西小にとっては初めての開催形式で行う秋の行事となります。学校は、昨年度の音楽会が終わって間もない時期から今年度の秋に向けて、この新しい行事が、児童、保護者、地域の皆様にとって、より良いものになるように、担当教員を中心に少しずつ計画、準備を進めてまいりました。当日は、音楽の演奏はもちろん、1，3，5年生とおおぞら学級の図工の授業も公開し、音楽会も展覧会も、どちらもライブで楽しんでいただく計画を立てております。

1学期、この新しい行事の名前を子どもたちから募集すると、237個のアイデアの応募がありました。応募された子どもたちのアイデア一つ一つに目を通し、検討を重ねた結果、この新形式の秋の行事の名称を「音覧会」とすることにしました。

季節は「芸術の秋」、約1000人の小さな芸術家たちは、音楽家、画家、造形作家…と、それぞれの肩書を背負い、2週間後に迫った本番に向けて着々と準備を進めています。どんな芸術にも、それを世に送り出す「作り手」がいて、それを見たり聞いたりして楽しむ「受け取り手」がいます。「受け取り手」の存在は、「作り手」のモチベーションそのものです。

私事ですが、学生時代から音楽や演劇に携わってきました。稽古や準備が始まる時には、「最高のものを作り上げようという」気持ちで臨むものですが、その気持ちをさらに強化してくれるのが、周囲からの声でした。本番までの過程で「必ず見に行くよ！」「楽しみにしています！」「どんな作品なの？」「あと少しで本番だね！」などという言葉が耳に届く度に、「もっと良いものにしたい」「妥協しちゃいけない」「どうしたら期待に応えられるだろう？」など、やる気や前向きな悩みが生まれ、気が付くと、最初の自分では考えられない程の成果に結び付いていた、という経験を何度もしてきました。期待感をもって劇場を訪れてくださるお客様と作る時間は、私にとって最高の幸せを感じるものでした。

展示や発表を楽しみにしてくださっている保護者、地域の皆様の存在を意識したとき、小さな芸術家たちのやる気はぐんと上がり、本人たちが想像しなかったような素晴らしい作品や演奏が生み出されることでしょう。ぜひ、今から期待や励ましの言葉を掛けていただき、芸術家たちにエネルギーを注入していただければと思います。そして「音覧会」当日は、皆様が育てた芸術家たちの作品、発表を存分に楽しんでください。行事の裏方である私たち教職員、小さな芸術家一人一人の一番のファンである保護者の皆様、主役の子どもたち、それぞれの心が通い合う素晴らしい第1回「音覧会」になることを思い描き、準備を進めてまいります。皆様のご来校を心よりお待ちしております。

十一月の暗唱

ここまででしょうか

金子みすず

「あそぼう」っていうと

「あそぼう」っていう。

「ばか」っていうと

「ばか」っていう。

「もうあそばない」っていうと

「あそばない」っていう。

そうして、あとで、

さみしくなると、

「ごめんね」っていうと

「ごめんね」っていう。

「ここまででしょうか。

いいえ、だれでも。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

金子みすずさんは、大正時代から昭和時代初期にかけて、活躍した詩人です。「ここまでしようか」は、一時コーモーションで流れていました。自分が優しい言葉をかければ、優しい言葉が返ってくる、鏡のような人と人との関係性を表している詩です。